

京交山岳部報

No 388

'85 2月号

【第1522回例会】

雪の棧敷岳 (T)

日 時 2月6日(水) 北大路駅京都バスのりば 7時30分集合
コ ー ス 北大路→雲ヶ畑岩屋橋→岩屋不動→薬師峠→岩茸山→棧敷岳→岩屋橋
担 当 者 烏丸 大倉寛治郎(TEL 2341)
備 考 冬山用具(アイゼン、ワカン、ビッケル、ヘッドランプ等)
食糧は多めに、非常食も忘れずに!

【第1523回例会】

願教寺山スキーツアー (T)

日 時 2月10日(日)~11日(祭)
コ ー ス 京都→名神高速→大垣→白鳥→石徹白→願教寺山
担 当 者 本局 大槻雅弘(TEL 2266)
備 考 マイカーで行きますので参加希望者は担当まで申し出てください。

【第1524回例会】

比良合宿 (T)

日 時 2月16日(土)~17日(日)
担 当 者 烏丸 大倉寛治郎(TEL 2341)
備 考 岳連冬山トレーニングに生徒役として参加します。

【第1525回例会】 冬山合宿

木曾 御嶽山 (T)

日 時 2月23日(土)~24日(日) 本局前 午後6時出発
担 当 者 梅津 吉田 武(TEL 2539)
烏丸 大倉寛治郎(TEL 2341)
備 考 打合せ 1月30日(水)午後5時30分 本局前に集合して下さい。

今月の集会

2月12日(月) 下鴨寮

企画運営リーダー会

2月20日(水) 岡本宅



今年の正月

岡田茂久

今年の正月も手持無沙汰にのんびりと過ごさせて頂いた。我々の仲間うちではスキー場でゴーチャスに新年を楽しんだり、雪山にもぐり込んだパーティもあったが、まことに羨ましいことである。私も一度くらいはとも思うのだが、もう長い間正月の雪山を忘れてしまっている。近所に年寄りの身内がいるとそうはいかない。一族が一同に会いするのは正月くらいしかないからだ。

例年のことではあるが、元旦は夜明け前にファミリーで西山(小塩山)に上がる。バーナーで熱いコーヒーを沸かし初日ノ出をまつのである。昨年までは我家のメンバーだけの静かな場所であったが、今年は何かマスコミでも紹介されたのか、林道が交通渋滞を起すほどの車の列であった。おまけに2輪のけたたましい騒音に、とても厳粛に初日ノ出を拝するなどという雰囲気のある場所ではなくなってしまっていた。初日が上がると下山し、花の寺の門前より大原野神社の森を抜けて初詣というのが、例年我家の元旦のスケジュールであったのだが、またどこかに静かに新年を迎えられる場所を開拓しなければならぬようだ。

根がじっとしてられない性質、のんびりに耐えかねて2日には我家の愛犬をつれて淀までサイクリンに出かけた。桂川の右岸から賀茂川の右岸へとつり、合流点から淀まで堤防沿いに立派なサイクリンロードができています。大阪街道の八丁駿辰の役の供養塔のあたりまでくると、ベタルは快調であるが、四つ足の進み具合が鈍くなってきた。1日一度の散歩は欠かさないまでもこの距離で連続はオーバーワークであったのか、時間もせかれ止むなく前輪上のカゴにほうり込んだ。大きな図体を尻だけ入れ窮屈そうであったが、まことにラクチンの風情で目を細めたりしていやがる。淀の競馬場はレースは5日からとあってただ広く、葉ボタンの色と池の白鳥の白さが印象的であり茶色の芝はいかにも柔かそうでレースの時の喧騒さはウソのようであった。

ところが帰りが又大変であった。我が愚犬ノロノロと上眼づかいに見上げ、はてはカゴに足をかけ鼻を鳴らす始末。私も甘い、ままよとカゴに寄せ走りだしたが、三十数キロのウエイトと向風、おまけに上流に向かって進むことになり、一汗も二汗もかく始末となって結局新年早々からハードトレーニングをさせて頂くことになってしまった。

バスがあったら乗ろりやないか、リフトがあるで、車はあそこまで上られるやんか、楽なことを覚えてしまうとつい足を忘れてしまう我身を見るようで、通常のトレーニングと楽なほうに向かう怠惰な気持ちを引き締めねばと、我がグウタラ犬の態度に改めて教えられた次第である。

ともあれ、それにしても今年の初日ノ出は素晴しかった。あかね色に染まる空に山々の黒いシルエット。いまかいまかと待つ一瞬、さーっと一条の金色の閃光が走ると60年の夜明けである。一度に囲りが明るくなり喚声上がる。奇しくも頭上に大きな牛がうづくまっているような白雲が現れみるまに黄金の牛に化身した。瑞兆とみたい。

続 ・ 道 標

伊 藤 潤 治

あなりれし／ これりれし／ たたかいかちぬ／。やはり橋本峯雄さん、である。大手術をやった退院後20日目という、10月6日、ロックガーデンから東お多福山・698m、翌日も同コース、14日葛城山△866m、20日飯道山△664m、21日成高峰△810m、28日八ヶ峰△800mなど着々と活動を開始され、29日には宮崎日出一さんへ「ジョウブツ山、木ノ実ヤ塚、コサグラ、コウバイ塚」を、11月17・18の両日でやろうと拍車が掛り、宮崎さんからこのご案内をいただき、橋本さんはいよいよ台高山々の山々で登山を正軌道へおのせになると、私もこれは何としてもたと雀躍。

宮崎さんに折返し何分よろしくとお願いして、また三橋勉君といろいろお世話になってきたのであるが、せっかくの台高で久保清右衛門氏の台高山舎泊りと聞いて、台高の同志であり現在京交の代表者である岡田茂久、田中忠久両君に参加を切望したのであったが、両君とも既に先約があったのは惜しかった。今回は、近畿山行会から中野正一氏、大阪市大山岳部OB平野義明氏をご参加になり、一行は6名になった。

橋本さんと中野さんの未登頂は木ノ実ヤ塚だけ。しかしジョウブツ山には10回を越す情熱的な登頂記録の保持者の由。平野さんの既登はジョウブツ山のみとか。宮崎さんになると今更だが、高見山凶業は総て登頂済であって、全然別格。結局全山処女峰というのは、私と三橋君なのだから何ともご友情の身にしむ感激のご企画であった。

11月17日 8時、近鉄榛原駅前集合。宮崎さん、中野さん、平野さんがタクシー。私と橋本さんは三橋君の車で追隨。R166号線駕家を経て東吉野村麦谷から林道を上り、木ノ実ヤ塚最寄りと思われる地点でタクシーを帰えす。そこは高所と木影のためか何となく暗く湿っぽかったが、駐車と水の補給とすぐコースなど、実に登山基地のうまい選定だった。下生えの目立たない急な斜面を直登すると、小さい岩が点在していた。トラバースで右の斜面へ移ると踏跡らしきものが笹群のまばらを縫っていた。

汗ばんだ頃、柔軟な短笹で堤状の1,200m尾根に上る。踏跡をもつ笹の茂みは露を宿し可愛らしかった。川上村との境界稜で左折すると、木ノ実ヤ塚はでかい根張り穏やかなまなざしで静かにこちらを見詰めているようだった。小さい窪にヌタ場があった。その上りから巨樹群に立派なブナを交えた悠然たる自然林の拡がりが始まり、獣道や藪の透き間や樹間等を突き進む先頭に従っていた。笹竹群が密度不足の弱腰であったのは意外でもあり物足りなかったが、笹でも足首にもとどかぬピロード状の大絨緞の展開があったのは庭園などよりも感動を呼ぶなかなかの情景だった。とはいっても、道や頼る標示もなき巖山である事に変わりはない。

頂き近くで先頭を橋本さんと私が譲りうけ、緑笹につつまれた木ノ実ヤ塚Ⅲ△1,373.8mの光榮ある先着をともにさしていただく。そして亭々たる樹々の見守る中橋本さんのご全快を、一同心からおめでたく慶祝申し上げた。いつまでも元気な登山活動がつづけていられるように祈り、木ノ実ヤ塚登頂の幸せをあらためて歡び合ったのである。

ぬくもりが伝わり来る豊満な山体に、香ぐわしきまでの草木群。橋本さんの祝福にはまたとないまったくすばらしい山上。流石に宮崎さん、よろこお選び下さった。木ノ実ヤ塚は、久しぶりに私の大好きなタイプの隠れた名山であった。

ジョウブツ山の呼称は単にジョウブツもあるそうだ。この山名の漢字表示は浄仏が使われているようだ。位置は木ノ実ヤ塚のやゝ西南方で、直距離が3.5km余。やはり東吉野・川上両村界線上にあって木ノ実ヤ塚とは尾根つづきである。全員の乗車には無理があって、宮崎さんと中野さんには縦走をしてもらったのだが、尾根が林道に出た待合せ場所には既に先着であり、つづいて地藏越でも車は不覚にも行き過ぎ引返して戻りつくのと何とまた同着。まったくお二人の俊足がうらやましかった。小道を老杉が五・六本でそびえ立つ群がりの木影に入ると、扉を川上村に開き祭られた童顔の石仏は、胸に大盛り御飯を両手でお持ちになっている衲があった。この仏体が地藏越の主と思われるが、このようなお地藏さまがお出だろうか。

道は川上領の身の丈くらいの植樹帯を抜け、新しく植込んだ斜面。これも僅かで雑木林に入り少し登ると近畿山行会の「ジョウブツ山」標が立つ落葉の積った平頂に、Ⅲ△1,307.9mがあった近畿山行会の建標は良材とていねいな塗装により、十ヶ年を経たとは思えぬ立派さであって、橋本さん、中野さんは感慨無量のご容子だった。

登頂の歡びへ遠慮勝ちながら時雨。しかしありがたいことに朽倒木、枯木立の豊富な山頂であったから、ほた火のぬくもりを囲むのは容易だった。15時まで座り込む筈であったが昼食をたのしむだけには、一時間余の滞頂で充分だった。下山も宮崎さんと中野さんには歩いてもらわなければならなかった。

林道を集材作業で20分余寒がれたあと、5分許り下ると今度は積荷中を待つことになる。ところがそこで、信じられないような伝言、「二人連れが先に行った、と云ってくれ、をきかされた。間もなく追跡にうつれたが、追いついたのは大又の寸前であった。まったく鳥人といおうか、この超人ぶりにはただもうあきれ返るのみ、このお二人には車もかなわない。たしかに車不要のすばらしい駿足である。

その夜の台高山舎は橋本さんを贅える祝盃でにぎわったのは当然である。宮崎さんのお献立が至れりつくせりであったので盛大な酒盛りになった。とりわけ土佐の花人イノウエヨシコさまの賛辞は白熱。その花人よりの名酒司牡丹が効いて、橋本さんと時を忘れて駄弁りつづけていたようだ。

せっかくの大又なので、この辺りの山がなつかしい。少し回顧させてもらう。初訪は高見山で、1952年4月20日、国見山は1956年4月16日、蘇岳が1957年6月16日。縦走は1958年2月及び3月、第二次が1960年2月。

台高山脈はいろいろ沢山の人を思い出させてくれるが、ここでは1960年1月、国見山で遭難された西込敏維氏の義兄松本さんと、今は亡き台高の同志宮後正樹君のめい福を祈るのみにとどめておきたい。

東吉野村地内で最近の足跡は、宮崎さんの「山岳巡礼」によって1980年1月30日、長尾 Δ 686.6m。モンガハラ Δ 685.5mくらいで私の大又訪問は1960年以来である。

第二日は快眠で目醒め朝食をいただき、庭に白いお茶の小花のひそかにかおる久保家にお礼のべてたつ。お世話になった台高山舎は、ある日大阪からひょっこり31名もの一行が訪れて4・5泊滞在。つまりこの来客台風の後に設置なされたということだった。この日は橋本さんの推称コースが待っていて、コサグラの登山口大豆生まで詰めこんでいく。バス停最寄りに駐車。

四郷川を渡ると立派な構えの家がならび、あちこちから犬の声しきりであった。左の尾根端に向けて小道をちょっと入ると山仕事の上下で磨きのかゝった道にのれ、作業林に上る里人と同行する。猪をねらう狩猟家の屯地点から岩のある尾根までつづいた。岩に上ると木ノ実ヤ塚からジョウブツ山を見わたせた。ここで道は左右に岐れる。右をいき、尾根急登の踏跡は敬遠、植林の茂みに入ると、先程の里人に会えた。その人からコサグラとコウバイ塚について、前者は小さき品の意味で、山頂はコサグラ谷の頭に当り、あの辺り一帯をさす字地名でもある。

後者はオオイコウベエという落武者がこの山で追手の矢を全身にうけて戦死、この事からコウベヤ塚の由を教わった。従ってこの表示、前者を小サ品、後者をコウベ矢塚といたしたい。

なお現在地点は子平(ネダイラ)が字名で、範囲の南限はテレビアンテナ附近、その先から小サ品だそうである。テレビアンテナ附近の大豆生側に少し雑木林がある他はすっぽり植林におおわれていた。小サ品 Δ 948.4mも植林の中にひっそりとあった。せっかく白く美しい標石だったが笹も草もない、ただ黒い地面にむき出しでは、何とも無気味である。やはり Δ は鮮やかな青笹や美しい緑草群に取囲まれているか、うづもれていてくれる方が自然美であって観賞にも張り合いがあると思う。

小サ品は Δ よりも雑木林がよかった。植林一色の彼方にあって一山秋を着飾って立つコウベ矢塚に対面できたからである。きっぱり毛並の違ひ貴公子の如く、であった。子平に下ってからは風通りのわるい檜のような植林内がつづき・963mの途中でちらっと名張・桜井図葉にかけての眺めがあって・963mから樹高が5・6と変って明るくなり、道幅が広がると大豆生・日裏間の破線路にかかっていた。こんな道がつづくのかとあきれたが、ほどのう踏跡道にかわり左植林、右、落葉樹林となってこの辺りから秋色をまとった貴公子の領域だった。

広くゆるやかに展開していく尾根筋は落葉木をあちこちと点在させ、あたかも大庭園のようであり馬馳け場にも思えた。尾根である事を忘れさせる地上には、ふんだんに大判小判がばらまかれ踏んでいくのが勿体ない黄金の落葉のまぶしい海原。その空には一葉もとどめぬいなせな裸木群のこまやかであり清楚である梢の心にくい鮮やかさ。また植樹群も見事な美幹をつらねて豪快に茂っていた。まことに素朴にして何ともたえようのないぜいたくな自然美なのである。山頂近くになって落葉木群は、松・アセビを主体にしてこんもりと爽快に茂り、樹木もぬぐわれたようにきれいな山肌であった。中央部は短笹群の垂れ幕状が馳けのぼっていた。

また感動の情景、ほこらしく胸を張りヒザも高くあげ名優気取りで Δ 1.094.6m へのぼった。樹林と短笹があり満悦できる頂上だった。この結構をならべつくしたようなコウベ矢塚コースを、秋の名勝として私は大いに贅えておきたい。

下山を忘れていると、いつお出かけであったのか中野さんはええ道があったとおっしゃって、偵察からおもどりになる。それで山頂を東へ行くと僅かに Δ 地点より高い、そこから右に爽快な樹林左に赤杭が打ってある演習林を分ける小気味よい境界を老朽小屋のある谷に下った。

すぐ下手で谷は合流し、谷沿い道も台高山脈への破線路を分岐させていた。この破線路はよく足になじみこちよかった。木馬のためのコロ木もおかれていた。深林と清流とたのもしい岳友たちでときげさんでいると嫌な橋が二本あった。滑落して痛い目はごめんと敬遠した場面もあったがこの破線路はこの山地の動脈的な歩道である。時折プロペラ音がひびいていた。木材の搬出にヘリコプターを飛ばしているためである。植林王国だからできるのだろうが、どえらい事をやるもんだと感心した。

和佐羅滝をのぞいたあと、道は右に岐れて急坂を谷に下り右岸に渡るとすぐ大又川の補装路に出た。そこへ時を合せたようにバスが現われるという好都合にのり、私と三橋君は大豆生で下車。着がえをただけで後を追ったが、宮崎さんたちが乗っているからか、足の速いバスであった。後姿を見付けたのはようやく榛原駅近くである。6名がにこやかに打揃い、売店の缶ビールできのりきよりのさまざまな感激をこめた祝盃をあげ、めでたく解散したのだった。

橋本さんから退院二ヶ月目、手術日から85日で私のホームグラウンド的な四ツの峰の四ツの Δ をスキップでき、台高山舎での大酒盛り等まことに痛快。そして体調すこぶる快適、喜びにたえません。と全快山行のお礼状(19日消印)をもらい、平野さんと三橋君より木ノ実ヤ塚、ジョウブツ山、小サ嶺、コウベ矢塚のカラー写真を沢山いただいた。

その後一ヶ月、私は木ノ実ヤ塚、コウベ矢塚での陶酔醒めやらず、まるで去勢された如く新しい山を想う心を失っていた。木ノ実ヤ塚を思いコウベ矢塚を思っているだけで、ふくいくたる余韻がただよい妙に平静だった。この山が私がかねてから求めていた(登れた山を、せめて一ヶ月くらいは思慕していたい)山であったようだ。

こんなの私の心をいやす山のほりであったと、この年になって始めて知ったことである。もう一回、橋本さんの回復を祝って、あなうれし/ これうれし/ たたかいかーちーぬ。

1984年12月28日 朝

第1516回例会

もうけものゝやま

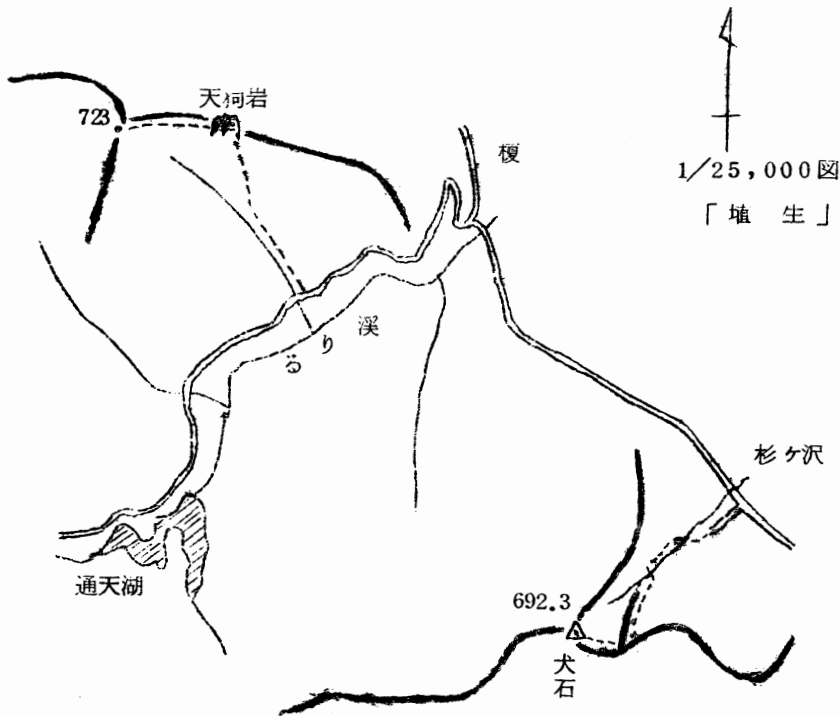
犬石と天狗岩

田中忠久

12月11日に予定していた第1516回例会は雨のため決行できず、12月20日、伊藤さんの同行を得て再行することができた。初雪も踏めるといふ、最高の天候に恵まれた初冬の日であった。国道372号線を園部町南八田で左折し、榎の村で杉ヶ沢から下って来た人に△692.3mの山名を尋ねると、山頂近くに犬の形をした大きな石があり、犬石というを教えてくれた。

杉ヶ沢のテニスクラブハウスのあるところから、最初、左岸の道を登り、左手(右岸)の尾根に取り付いた。(この辺りは伊藤さんの好判断による)大きな石が点在する落葉樹の尾根で展望もよく、ところどころナタ目もあって、きわめて快適にぐんぐん登って行くことができた。

市郡界尾根からは犬石を経て5分で三角点標石のある山頂に達した。東北に展望が開けた実に清しい山頂であった。快適に登ることのできた尾根と清々しい山頂、これはもうけものゝやまや伊藤さんと話し合いながら、四合ビンが残り少なくなるほどの愉快な山頂の一刻であった。



再び榎の村に下って、東方の稜線上に大きな岩の見える山の名を道端の民家のおばあさんに尋ねた。「あそこに見える岩を天狗岩といふ、むかし天狗が住んでいたそうな、40才くらいのころ、柴千束を持って上り天狗岩の上で火を焚いて雨乞いをしたことがある」ことなどを話してくれた。天狗岩の登り口を聞いて別れた。

天狗岩の登り口は、りり溪左岸中腹の府道に天狗水がトユを利用して落ちているところで、その谷の出合から右手に登るとよい道が谷沿いについている。道が谷から右手へ別れるところには赤いテープの目印があってわかりやすい。登り口から天狗岩までは25分であった。

天狗岩は予想外に大きく、岩の上に登ると4~5人が座れる広さで、その展望はすばらしく正に360度、丹波第一の展望台ではないだろうかと思われるほどであった。

独標723mは天狗岩682mから10分で、こゝも落葉樹の中の明るいすてきな山頂であった。ゆっくりくつろいだのはもちろんのことである。伊藤さんといっしょだから…。

もうけもの二山を終えて駐車地に戻ったのは丁度13時30分であった。「りり溪近道、約1分」の標識のあるところである。伊藤さんにお茶を入れてもらって、早目に帰路についた。

〔コースタイム〕 1/2.5万図「^{はぶ}壙生」

8:15~8:30 園部町杉ヶ沢…9:10 市郡界尾根…9:15~10:10 Δ692.3m…10:40~10:45 杉ヶ沢—10:50~11:10 榎—11:15~11:30 天狗岩登り口…11:55~12:10 天狗岩…12:20~13:05 独標723m…13:30 駐車地(りり溪左岸中腹の府道、りり溪近道の標識のある処)

案内は北標の山となっていました、丹波の山の誤りにつき、こゝに訂正しておわびします。

恒例 新春登山 牛 松 山

田 中 忠 久

十二支会という登山団体のあるのをご存知の部員の方が多いと思います。当山岳部の中にも十名近くの方が加入されていて、北は北海道から南は九州まで、毎年えとに因んだ山名を選んで登っていらっしゃる団体です。三巡二山目の今年は四国の牛ヶ峰に登られると聞いています。

年々ご盛会の十二支会にあやかって当山岳部も、今年は恒例の新春登山を愛宕山から牛松山に変更したところ、多数の方々が参加していたとき、山頂の金毘羅宮に今年一年の安全登山を祈願しました。独身の方、ご家族で参加された方、それぞれどんな思いを祈願されたことでしょうか。今年お子さんとお孫さんのご誕生が期待されている荒田さんはまた格別の喜びを胸に秘めて新春登山に参加していたことでしょう。そのお話を聞いた皆さんはともうらやましそでした。

山頂には三代の年男が揃い、代表して河村さんが胴上げの栄に浴されましたが、さすがに丑年男ずしりと重く高く舞い上ることはありませんでした。吉田君が準備してくれた「せんざい」は大好

評で皆さんでおいしくいただきました。ポッカをしてくれた若手組の皆さんありがとう。中高年組も少しがんばりました。

晴天なれど小雪の舞う天候は清々しく、美しい新雪の樹木と合間って新春登山をよりすばらしいものにしてくれました。眼下に広がる亀岡盆地も伸びめく京都を象徴してとてもよかったと思います。急勾配の下りも皆さんよくがんばっていたらいて予定どおり亀岡発14時30分の列車に乗車することができ、嵐山の新年会場へと向いました。

〔参加者〕

OB 近藤、山村、坂井、奥村、石田和、河村、村、王生、畑、田中定

本局 鷲見夫妻、渡辺夫妻、方山、原田、楠、大木、幹子ちゃん、山口、山元、三橋

高速 岡田、辻、井上

梅津 吉田、早苗ちゃん

九条 田中、恵ちゃん、大槻貞、上島

市役所 荒田 以上 32名(目印の方は年男です)

〔コースタイム〕

京都8:29—二条8:40—嵯峨8:50—亀岡9:27～9:35…鳥居前10:05～10:10…山頂お宮
さん11:45…三角点11:50…下山13:00…亀岡駅14:20～14:30

牛松山に行ったかんそう文

大 倉 順 子

私はお母さんとお父さんと、兄といっしょに元旦の日牛松山に行きました。牛松山に行く前、電車が来るのでいそいで用意をしました。いそいで道を走りました。そしたらなんとかまにあいました。亀岡駅で電車をおり、タクシーに乗って牛松山の近くまで行きました。

始めお父さんは、かさをさして歩けるくらい、と言っていたのにそれとは逆でかさをさしていると、しんどいぐらいでした。登っては休んで、休んでは登って行きました。そうして登って行ってやっと上に着きました。上に着くと小屋みたいな所があったので、そこに入って荷物を置いてたき火をしてラーメンやぜんざいを作って食べました。その小屋みたいな所に保津川の舟のもけいが、かざってありました。

小屋のそばに金びらさんがあったのでおさいせんを入れて、おがみました。私は一月一日たん生
日だから、上でたん生
日会をしてもらいました。ケーキが一つあまったので、金びらさんにおそなえしました。

私のたん生
日会をやっている途中に、モトクロスのバイクに乗ってだれかが上まで上がってきたのでびっくりしました。そして、もうちょっと行った所に三角点があるので、そこまでいって写真

をうつして小屋にもどってあとかたづけをして、行きしとはちがり道から帰りました。おりて行く途中にさっきのモトクロスに乗った人がきたので、またびっくりしました。

おりて行く時、道に赤いプラスチックのぼりみみたいなやつがあったので、それをかぞえながらおりて行きました。下におりて道路を歩いて帰りました。歩いていたらちょうどタクシーがきたのでそれによって亀岡駅までもどりました。つぎの電車がくるまで時間がまだまだあるので一番通りの店があいていたので、お兄ちゃんはファミリーベーシックをかって、私は本をかいました。まってるあいだそれを読んで、電車の中でも読みました。とてもたのしかったです。

〔参加者〕 大倉寛治郎、由喜子、和寛(中1)、順子(小5)

〔コースタイム〕 花園駅 9:23 - 亀岡 10:07... 登り口 10:18... 弁 10:30... 金毘羅 11:56...

三角点 12:03 ~ 13:25... 園分 14:18... 亀岡駅 14:43

納 め 参 り

12月9日 晴

畑 照 人

天気晴朗にして風も無く、ほんまに良いハイキング日和です。釈迦堂前でバス待ち。少し遅れて来たら満員の盛況?。前扉から「乗りなはれ」こんな初めてや。矢張り休日でお天気なれば、多いとは思っていたがこれ程とは一寸オドロキでした。三条京阪からのバスです。京都駅から田中氏参加する予定です。これも遅れるやると清滝で待っていると案外にも定刻通り到着です。山屋さんも10人位下車。御神酒徳利。久しぶりの道行です。私は本日、月参りの納め日。彼氏は今年初めてやとのこと。汗をかゝん様にゆっくり歩こうといっても矢張り無理です。汗が出ます。一枚、一枚と脱いで、竹の子生活やと大笑い。お助水の所で2人の女性と道連れになり、いろいろ山の話、歩く効果や行った山々のことなどを…。毎週この山へ(日)のAM 5:30頃から登山してる。コースも変えて来ますが、何度来てもシンドイワ…。

抜きつ抜かれつで頂上目指して行くと黒門の手前で、大槻さんと吉田さんに会い。山岳部の体力テスト? 御神酒を戴いて今下山中とか。矢張り若さですね。記録を聞いて、これまたビックリです。とてもとてもです。ネ。来年の初登山会の件を申し入れる。参拝後、石段下の日当りの良い処で昼食とります。ワンカップで乾杯。下山も表参道を利用しました。樹木の切出しが進んで谷筋も明るくなった感じです。彼氏よ、来年から月参り復活を宣言されたこと、忘れたらあかんですよ。お互いに健康保持のため、大いに歩きましょうね。妄言多謝。 同行者 田中定勝

新年会報告

6日 PM.4:30 於あみ舟「小島」

今年は丑年なので新雪の牛松山へ登りその帰りに嵐山の小島で新年会を行ないました。お酒や金一封をいただいた、山村氏、王生氏、辻氏ありがとうございました。例によって出席者全員に今年の抱負を語っていただいたあと、文化祭に35周年記念事業として出品した写真パネル18枚を1枚1,000円で希望者に配布いたしました。

津田 去年も行きたいと思っていた南アルプスへ今年はぜひ行きたい。岩と氷の恐い山やけど1番恐いのは嫁はんや。

(南アルプスへ行くのやったら、富士山について高い北岳へ行っといで……大槻)

吉田 今年1985.1mの美ヶ原の物見石山に登りたい、高令化しているのでファミリー山行をふやしたい。また岩のほりを始めた若手と雪彦山へも行きたい。

和田 去年はいろいろやりましたが、今年は去年ほど行かれないが、1度例会を出したい。

(良ちゃんの例会がいつ出るか楽しみや。)

篠田 結婚に際しましていろいろいただきありがとうございました。マイペースで北山へ行きたい。また機会があれば例会にも参加したいと思っています。

親分 まあ、1年に1山を本日果したので、人生もプラスアルファのおつきの人生なので山もおつきで行きたい。直間比率の問題でOBが逆転しそうなので、若い人にもっとガンバッテほしい。

荒田 去年孫が生まれ、今年子供が生まれるので孫と子供を連れて山に行きたい。

坂井 久しぶりで皆さんにあえてうれしいことです。去年は会社をやめたので、今年のはんびり皆さんと山へ行きたい。

山口 自己紹介を兼ねて、去年の春入りました山口です。昨年は南アルプスへ行きましたが、今年も行きたいと思っています。ジョギングの10キロレースに出たいとガンバッテいます。

大槻貞 山やらスキーやら楽しくやらせてもらっていますが、昨年藪山も楽しいと思ってきまして今年は5つぐらい、山スキーも3つ、普通の山行きも10ぐらい行くため、他の遊びはすべてやめて山に集中したい。

奥村 今年は大変な年になるので山に行くどころではないが、万障くり合わせて山にも行きますので、よろしく。

岡田 今年、マイペースで行きたい。今日の初登山には吉田君に荷物を運んでもらったし、田中さんにも新年会の会場でお世話になりました。何事をするにしてもうらで準備をし

てもらっている人がいられる事も皆さんに知ってもらい為にも、今日ここに出席されている皆さんが1つずつでも例会を担当してもらいたい。また昨年の能郷白山は非常に良かった。藪山にも行ってほしい。

鷺見 私は日中友好で大白山を目標に行きたいと思っています。沢のほりをしたいのでいつか田中さんの比良西面の谷シリーズのように最初は1~2級程度から最後に3級程度のヌクイ谷等、楽しい山行をしたい。

大倉 おととしては、アクシデントで体の悪いところを取ってもらい、昨年は自分の山行で南アのノコギリをあえぎながら登って甲斐駒や千丈をみてきてよかった。ストレスはたまっていませんか。山にもストレスが残る場合もあるので、くいの残らない山行を心掛けたい。

方山 35周年で北海道の山がよかった。今年もマイベースの山行をしたい。

辻 OBのホヤホヤでのんびり山行したいと思います。

村 昨年の10月にOB入りしましたが、今まで単独行動でしたが、今年から参加したい。

大槻雅 30周年に兩の最高峰屋久島と35周年で北ノ山へ行った成果があった。

藪山の伊吹から大日までの国境稜線の山を25年かけて三国岳だけ残して登った。

岐阜100山の43山程登った。昨年残っていた越山も登り私なりに登れたと思う。お正月休みに15分程の山の写真を整理してインドアの山行を3日ばかりで整理した。自分の山行は少ないが四季を通じて四つぐらい自分の山ゆきをしたい。赤石岳と大白山(中国)予定しているが、冬の願教寺山、夏か秋に南アルプス、そして奥美濃にも入りたい。オールラウンドの山行を若い人には特にやってほしい。たとえばしくくでもいゝので、岩のほり、沢のほり、ヤブ山もやってほしい。

43才になったのでスタミナを考えたその年に応じた山行をしたい。自己体力のトレーニングで愛宕山に20kgかついで1時間16分であった。今年も又やりますので参加してほしい。

山村 年令の問題もあるが、体力のゆるすかぎり、時間のゆるすかぎり参加したい。

私は薬師山の近くに住んでいるので、この山には365日毎日登っているのだから皆さんよりよく山へ行っています。

河村 山を見る方が多くなり、オトツシはロッキー、去年はアイガー、今年9月ごろにモンブランへ行きたいと思っています。皆さんとも出来るだけ一緒に登りたい。

石田 OBの石田です。日ごろは部報に出てないのですが、絶対に連れてもらおうと思っていた牛松山へ行き不名誉な記録を更新していたのが、これで消えました。今、横大路のグラウンドにいますのでグラウンドの事はまかせてください。なんとかします。

三橋 インドアの集会で山の写真8%会をやりたい。それぞれ味わいがある全国の山に伊藤先輩に連れて行ってもらっています。

大木 本日は、5才の娘をつれて登らせてもらってありがとうございました。何とか入門と

田中 いう山行をしたい。昨年1月1山を目標に登りましたが借金が出来てしまいました。私が始めて牛松山に登ったのは前々回の丑年で、73才の京都山岳会の森会長とご一緒に牛松山から地蔵山に登りました。その当時私は独身で23才、妻はまだ中学生だったと思います。

次に牛松山に登ったのは、前回の丑年で妻がいて、長男がいました。翌年娘が生まれました。寅年です。その娘が、今回の牛松山登山に「パパ一人では淋しいやろ、一緒に登ったるワ」と云ってくれました。次回牛松山に登る時はもう還暦です。

三浦 12年のサイクルに人生の綾を感じます。あと3回は牛松山に登りたいと思っています。(3代にわたる牛とし生まれが、せめて5代そろって行きたいと思っています。岡田)遅くなってすみません。山岳部は新年会だけ参加させてもらっています。又、来年の新年会もよろしくをお願いします。

なお山行に参加し、新年会に欠席された畑氏からメッセージをいただきましたので、ここに紹介します。

畑 富士山、大峰山、伊吹山、二年続いたので今年も登りたいですね。愛宕山への月参りといっても信心ではないと云えば神様に叱られるかも…。足の訓練です。併せて大文山池の谷地蔵さんへも思っています。北山方面もまだまだ歩きたいです。それから坂井さんの著書の山々も、一つか二つくらい行ってみたいです。地図まで買った山もあるのです。もう一つ大物がありますのや。利尻富士。これが中々の難物でして、去年は休日がとれなくて残念でした。大槻さんにはいろいろと御世話になりながら御免下さい。○と休日が問題でして、計画倒れになるやも知れませんです。

記念写真出品パネル(北海道の山、南ア鋸岳、北檜尾根)購入協力者氏名

三橋2、山村、坂井2、鷺見3、岡田、方山、近藤、吉田、大倉、
田中2、大槻貞、荒田

なお、収入金は部会計に入れました。ご協力ありがとうございました。

東山三十六峰を歩く会

田中定勝

主催 自然と人間との関係を探究する ネーチャア・クラブ

東山三十六峰は三回に分けて歩く計画で、第一回は比叡山～北白川までの行程13kmを歩く。

参加人員 30名

日 時 12月23日(日) 晴 午前8時30分

集合場所 叡電 出町柳駅

講 師 塚本珪一、逢原一生

出町柳駅を午前8時40分乗車出発、ケーブル終点9時10分着。こゝで講師の紹介と簡単な三十六峰の話聞く。そして蛇ヶ池のスキー場を左に見て三角点に向う。スキー場は大勢の人で賑わっていた。三角点に着き、三角点の謂れと比良連峰に付いての説明を詳しく話された。こゝから北方を見れば蓬萊山の峰々は綿帽子をかぶったように美しく見えた。

三角点を後にして歩きだす。京都新聞社の夏の納涼のオバケ屋敷跡を越え南下する。千種忠顕碑(塚址)の説明を聞き、小休止する。水飲陣屋跡、このあたりから落葉が多く霜が溶けて歩きにくかった弁天道の石鳥居へ出て葉山観音の上の山道で昼食とする。12時50分出発、北白川城跡、瓜生山頂の各所で詳しく話された途中で講師が此のあたりは、山いちごが沢山あると云われたので少し山をおりて見れば一面に真っ赤な山いちごがあり、全員で取りかゝった。今日のよみやげができてよかった。三十分程かゝる。北白川幼稚園着、午後3時。次回は三月第三日曜日と云われた。全員元気で解散した。

比 叡 山

比叡山は略して比叡ともいう。京都の東北にあって、南は如意ヶ岳に接し、北は遠く比良山にたゞらなり、山城近江の両国に跨る山容優婉にして古歌には都の富士ともたたえられ延暦遷都以来、平安京とともにながく歴史の舞台に著聞する名山である。

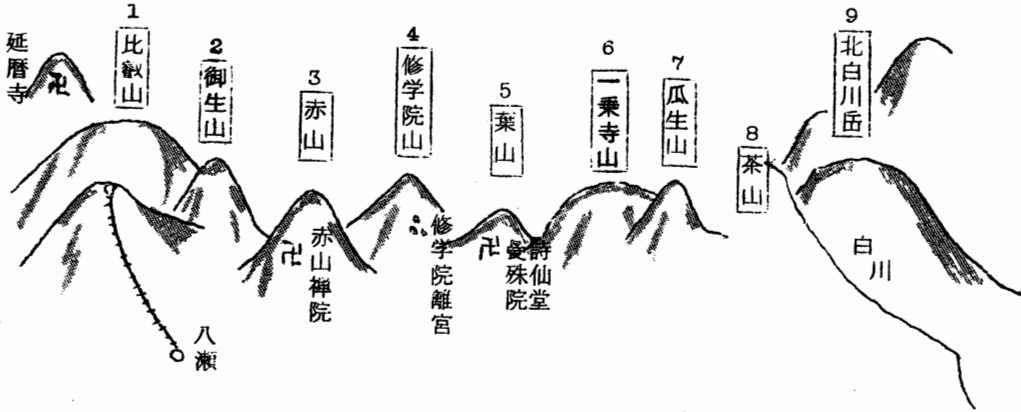
はじめは日枝山と書き、大山咋神をまつる霊山として古来神聖視されてきたが、伝教大師最澄が王城鎮護のために延暦寺を建立してより比叡山とあらためた。一に禪寂または日吉に作り、その天台教を伝えたところより天台山とも称し、単に台嶺とも北嶺ともいう。山の大部分は秩父古生層の岩石からなり、南斜面は花崗岩の地帯に属してふかい樹木はみられないが、根本中堂など諸堂司のある東北面はうっそうたる各種の樹木が繁茂し、多数の小鳥が群集するので鳥類繁殖地として天然記念物に指定されている。山嶺は二つの高所に分かれ、西にある四明ヶ岳という(高サ839m)、東にある大比叡(叡兩岳)といい、(高サ848.3m)ある。さらにその北にそびえる釈迦岳と水井山を含めて広く比叡山と称しその周囲は10数軒に及ぶ。

瓜 生 山

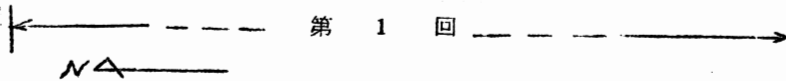
瓜生山は北白川の東北にあって、比叡の大岳を背景にし突兀としてそびえ立つ。(高サ300m余)の一孤峰をいう。この山は、八坂神社の祭神牛頭天王(素戔鳴尊)が清和天皇の貞観18年(876)

播磨国広峰よりいまの八坂郷の地にうつし祀られる前に、しばしこの山上に鎮座されていたと伝えられ午頭天王が木瓜を好まれるところから瓜生山の名が起ったといわれる。

東山三十六峰



比叡山、 四明岳、 Δ 大比叡岳… 848.3m Δ 修学院山 442.5m 瓜生山 301m



お 願 い

84年度の山岳部活動も若い人の育成をテーマとして、活発に活動をしてきましたが、特に若い人が中心となりおこなわれた夏山合宿の成功は、大きな収穫であり、今後の部活動において大いに評価するものであります。又、部創立35周年記念行事という大きなイベントも皆さんの協力により無事に終了するに至りました。岳連活動においても、63年京都国体にむけて(コース調査等)積極的に参加していただき、現在、京都岳連の中心的な位置づけにあります。

今回、部の活動をさらに充実したものにするため、試みとして60年度の年間計画書(案)別紙に皆さんの考えておられる楽しくいける山行のプラン(日帰り登山、合宿又はぜひ計画してほしい山行)を記入していただくようご協力をお願いし、皆さんのプランを参考にしより充実した85年度総会の資料にしていきたいと思っております。皆様のご意見をお待ちしております。

(事務局)

例 会 報 告

例会No.	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1515	体力トレーニング 愛宕山	12月 9日	晴	大槻 雅弘	吉田 F	昨年から始めて今年2回目だが参加者が少なく残念であった。昨年より2kg重くして2分遅れであったので、自己体力を保持している証明になった。
1516	大河内改め 犬石	(変更) 12月11日	晴	田中 忠久	伊藤 潤治	久しぶりに伊藤先輩と一緒に楽しい山行となった。 別稿報告
1517	志賀高原 スキー	12月14日		吉田 武		残念ながら積雪不足で中止した。
1518	納山祭 落合	12月22日	晴	三橋 勉	近藤、山村 坂井、大槻 方山、山元 鷺見、井戸、川原、大木 和田、広瀬、岡田、大倉	古市さんに材木を運んでいただいた暖かいタキ火の中へ鷺見夫人差し入れのサツマイモがオイシクッタ。本当にありがとうございます。泊る予定を変更して全員9時半頃に帰りました。
1519	新春登山 牛松山	1月 6日	晴	田中 忠久	近藤、山村、坂井、奥村、石田和、河村、村、王生、畑、田中定、鷺見 F 1、渡辺 F 1、方山、原田、楠、大木 F 1、山口、山元、三橋、岡田、辻、井上、吉田 F 1、田中 F 1、大槻 貞、上島、荒田 以上32名	別稿報告

雑 報

▲ 部費受領

12/27 西賀茂 飯原京二 (昭和59年度~60年度分)

帆布・瀝布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

愛されるスポーツ店

京菱運動具店

本店 下京区太宮通松原上ル
TEL (801) 1331
十条店 南区竹田街道十条上ル東側
TEL (691) 8041
伏見店 伏見区柏耆町西友ストアー4F
TEL (623) 0824
山科店 山科区音羽野田町1番
西友ストアー山科店
TEL (592) 9770内線228

一年中、山用品だけの プロショップ

営業時間
午前10時~午後1時と午後3時~午後8時
(午後1時~3時は閉店させていただきます)
〈定休日〉 水曜日

山・アウトドア プロショップ



ログケビン 長谷川 博
京都市中京区御幸町通
蛸薬師南入
(四条河原町・阪急河
原町より徒歩約4分)
TEL 221-7569



真の専門店として
好日山荘は前進しております
山とスキー用具の
ことなら御まかせ下さい



確信ある用具を
確信ある価格で...
好日山荘
河原町六角下ル東入
TEL 241-1731

山の本

山岳書 電話ノ本にて
無料配送

ゆかり書房

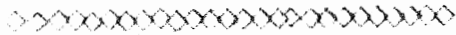
075(801)8333

昭和60年 2月 1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部

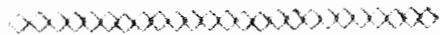


お知らせ

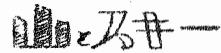
今度、当チロル店舗は近代ビル改築計画に伴い、一時立退きと相成りました。改築期間中(約1年間)は、本店2階にチロルコーナーとして継続営業いたします。

チロル

移転先 本店2階
京都市中京区西ノ京町24
ダイヤ運動用品株式会社



まかせて下さい...ネ



のことなら...

☆在庫豊富にとり揃えています
☆山の道具はぜひ御相談下さい
山とスキー専門店

ビッグホリイケ

河原町店 上・河原町通丸太町東入
TEL 222-0368

御婚礼

御引越



きおん菊水運送株式会社

山科配車センター
京都市山科区西野山塔町12-12
TEL (075) 581-3101
本社
東山区大和大路通四条下ル 541-2345
爽川営業所
中京区室町二条上ル 256-3059

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト 西島輝雄

左・川端通丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442



山とスキーの店 京都 あるむ

京都市中京区新町三條上ル
075-255-0288

HIKE & CAMP

この用具の事ならユニシが一番です!

御来店ありがとうございます

山とスキー レジャー スポーツ ショップ
そして
海の



中・二条通河原町西 TEL 231-1200